

国際取引法A		講義	教授 吉田 一康
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの選択必修科目、会計ファイナンスコースの専門選択科目 教職科目	科目ナンバリング	23120201 25320230

1. 授業のねらい・概要

国際取引法の基本事項を理解することを講義の目標とします。現在、デパートやスーパーでは、「made in Japan」の商品の方が少ないかもしれません。多くの商品が、国際取引を通じて外国から輸入されたものです。「国際取引法」の講義では、そのような国際取引に関係する法律について学びます。

前期の「国際取引法A」では、国際取引法とは何かということを理解して、次に、国際取引紛争の解決方法と紛争に適用される法律（準拠法）を決定する国際私法などについて考察します。また、今後、ますます重要性が増してくると思われる英文輸出入契約書を、実物やDVDなどを使用して学習します。

基礎的な法律知識を必要としますので、「ビジネス法学入門」を履修していることが望ましい。

2. 授業の進め方

- ① 50～60分 配布するレジュメ（要約の印刷物）に従って、パワーポイントを使用して講義を行います。
- ② 30～40分 配布する練習問題に回答して、その後、解答を行います。また、質問・意見があれば討議を行います。

3. 授業計画

1. 講義紹介	9. 国際海上貨物運送
2. 国際取引法の定義	10. 国際海上貨物運送実務（海運会社）
3. 国際裁判管轄（裁判を行う権限）	11. 国際貨物海上保険
4. 国際商事仲裁（調停と仲裁）	12. 荷為替信用状決済（海外への支払い方法）
5. 国際私法（準拠法について）	13. 国際取引契約の締結まで
6. 輸出通関（通関士など）	14. 英文輸出入契約書①（取引条件など）
7. 輸入通関（関税、ワシントン条約など）	15. 英文輸出入契約書②（準拠法・紛争解決条項）
8. インコタームズ（定型取引条件）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各講義の内容に関係する参考文献の該当箇所を読むこと（1時間程度）。講義後、授業内容を復習して、レジュメ及び練習問題の解答を理解しておくこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ① 各講義で行う練習問題の後に、解答及び説明を行います。
- ② 期末試験の後に、解答を行います。

6. 授業における学修の到達目標

- ① 国際取引法の概略を理解すること。
- ② 英文契約書を理解できるようになること。

7. 成績評価の方法・基準

積極性 20%＋期末試験 80%で評価します（A 80点以上 B 70～79点 C 60～69点 D（不可）60点未満）。

積極性は、受講態度や積極性で評価して、客観的に認識できる遅刻、私語・居眠りに対する注意の場合、減点します。期末試験の受験資格は、全講義の3分の2以上に出席した者とし、出題範囲は全講義で、上記の到達目標①の確認を主とする穴埋め問題と記述問題、同②に関する例題問題を出題します。

8. テキスト・参考文献

毎回、レジュメと練習問題を配布し、テキストは使用しませんので、特に購入する必要はありません。自習のための参考文献として下記のものを挙げます。

- ① 佐野寛『国際取引法』（有斐閣，第4版，2014）2750 円
- ② 石川雅啓『実践貿易実務』（JETRO，第12版，2016 年）3190 円
- ③ 中島暁『詳解国際法律文書作成』（商事法務，2013）4400 円

9. 受講上の留意事項

- ① 法律英語を使用するため、英語の基礎力が備わっていることが望ましい。
- ② 私語・態度不良など他の受講者の迷惑となる行為や、遅刻・中途退席などの目立つ受講者については、評価を減点又は受講を制限します。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、不動産会社等における法務の実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。